



リステラス星圏史略
古資料ファイル
1 - 6



『四民平等』
(仮題)

(発掘整理一旦完了)

霧樹里守 is 土岐真扉

『四民平等』

(仮題)

(タロンと柔、檻 (ケージ) の中で。) (高校?)

(タロンと柔、檻 (ケージ) の中で。) (高校?)

2016年8月25日 リステラス星圏史略 (創作)

タロンと柔、檻 (ケージ) の中で。

捕われた者

タロンが捕えられ、繋がれてから、4日がたとうとしていた。

「今日もまた...か。」

「ああ。見ろよあの面構えを... 瘠せたな。」

今日もまた牢番たちはしつこく食事を取り替えに来る。

タロンは頑として1度座した箇所から動こうとさえせず、食器が置かれる時にたてるカチャカチャいう音にも、眼線ひとつ、くれてやりはしなかった。

「それにひきかえ...」

同じ檻 (ケージ) の中には、柔 (ジュウ)、と呼ばれるしおたれ者も、これは暴れぬが為に縄目を受ける事もなく、大人しやかに、いやむしろ浅ましいまでの姿をさらして、与えられるエサにがつつき、足りないひもじいとあわれっぽく牢番どもに泣きついているのだった。

「おらよ。これでも喰え。」

タロンが手をつけずにいて半ば腐らせてしまった肉片がその柔の鼻面に蹴り飛ばされる。

柔はその衝撃にぎんぎん喚きながら、それでも苦痛がおさまると、卑屈にも、その屍肉をきれいにたいらげてしまうのだった。

自らの尊厳死を前に、タロンはそんな同類の姿を静かな態度で黙殺しきっていた。

『アーゴンシュカの物語』

(仮題)

『大アトラン国伝誦・Ⅰ アーゴンシュカの物語』 1 (日付不詳。中学～高校のどこか。)

[『大アトラン国伝誦・Ⅰ アーゴンシュカの物語』 1 \(日付不詳。中学～高校のどこか。\)](#)

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#) [コメント \(1\)](#)

ある昼下がりに。埃のたつ雑踏の市の辻で、道を行く婢女（はしため）の1人が頓狂に声をあげた。

「あれ見さいのう。あれに行かしゃるはズードリブールのお館さまでは」

ズードリブールの名が出ると共に、人々の顔が自然と指された方を向く。

と、そこには長い絹裳の裾を風になびかせて、堂々と馬上にある貴婦人の行列があった。

白にえんじの鮮やかな上衣に同色逆配色の裳を着けて、宵闇色の被衣を涼やかに浅く打ち掛けただけの姿である。ズードリブールの館さまと呼ばれる女性は、衆人の中で輿の垂れ衣を降すどころか、美しい横顔をさえ陽にさらして、馬に乗っているのだった。

わずかに臆した様子でやはり馬の背に揺られながら続く、華やかでいてどこか清楚な装（なり）の従女達。頬を紅潮させ、よしや乙女らや美しい女主人に無礼の儀を働く者のあれば、と、まだ幼なさの残る美しい青年兵が後衛に就いている。

市場中に散開していた群集の眼と心とを一身に捕えて、ズードリブールの侯爵正妃は悠然と市の一角を目指して進んでいった。

「なんと、アヴィン。我が妃（みめ）よ」

一行が近づくにつれ、異国の隊商の天幕から身軽く迎えに現われたのは、おそらく舎人が知らせに入っていたものであろう、ズードリブール侯爵その人である。

彼は口先程には驚愕した様子も無いようで、楽々とした大股で優雅に歩み寄って来ると、アヴィンと呼んだ妻が鞍から降りるのに手を貸した。

豪奢な、殆ど黒一色の服に身を固めた長身の侯爵の隣に立って、黒髪 of 侯爵妃アヴィラ・アングルシュカの姿は、華奢で小柄ながらも凜とした気品と気高さに光りを放たんばかりである。

王都に住む者なら誰知らぬ事のないこの2人の並んでいる様は、嵐の天を貫く稲妻のような、それとも昼日中太陽が消えてしまった時に残るあの不思議な蒼い炎のごとき輝きを帯びているかのようで、見る者の心を思わず魅きつけてしまわずにはおかない。なぜなら、彼らはこの時代、この世界において唯一、何ものからも束縛されない心を持った人間だったのだから。

それでも侯爵は試みに妻をなじってみせる。

「アヴィン、そなた、街中に出るなとまでは言わぬが、せめて輿なと車なと使うわけには行かぬのか。女人の身で馬に乗り、人前に姿をさらすなど」

侯爵妃は笑う。侯爵の舎人たちや取り引き相手の異人たちすらが居並ぶ中で、生き生きとした声をたて、扇で顔を隠すような振る舞いもしない。

「輿の垂れ衣越しでは民人の生活を見る事もできません、馬の方が性に合うて楽にござりま

すわ。わたくしは、全てわたくしの自由にしてよいというお約束であなたのもとに参ったのですから、侯爵」

『れぶノだい王ノ二十五年、騎馬民族 西ヨリ来タリテ れぶ ヲ攻ム。だい王・あぜんノ役戦ニ敗シテ和ヲ請ヒ、正妃ぐおりヲシテ騎馬ノ長ニ嫁ガシム。ソノ子ゆでいん、マタ姫 あう` いん、二児ナリ。

あんごるトハあう` いん・あんごる妃（しゅか）ナリ。れぶノ白キ肌ト騎馬ノ族ノ黒キ髪トヲ持チテ、れぶノよしゅいノ西北、青ガ草ノ原ノ幕舎ニテ生マレタリ。十ノ歳ニ至ルマデヲ彼ノ地ニテ過ゴシ、れぶノだい王ノ三十四年、都ごどむニ来タル。

ごどむニ侯爵アリ。貴キ血ヲ汲ム者ニシテ富裕ナルずうどりぶるノ領主。武将ノ生マレナガラ異邦ノ輩ト易交シ、巨財ヲ得ル。マタ妖術錬金術ヲモ技トシタト人ニハ語リツガル。

だい王、宮ニ上ガリタルあう` いんヲ欲ス。あう` いん返言シテ曰ク、

「吾ハ吾ガ心ノママニ生クルコトヲ欲ス。君、王ハ吾ガ望ミヲカナエルカト。」

だい王、コレヲ拒否ス。スナハチあう` いん、王ヲシテ退出セシム。

侯爵、ソノ噂ヲ伝聞シシテあう` いんニ求婚ス。あう` いん再度問フ。侯爵諾シテ即ワチ後宮ノ妻妾ヲ解キ払い、あう` いんタダ一人ノミヲ正妃トシテ娶ル。諸侯彼ヲ嘲ス。彼辞セズ。』

..... レブ史 悲妃伝

~~処女王ア—ゴンシュカの父母であると伝えられる2人について、
—実の両親であると思われる—~~

アンティゴンウル

ウィラ=アゴン

イラ

ユリ

アヴィン

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#)

アトランの西南に位置したと思われる大国レグの国史の中に、少女ウィナ …… 後の処女王アーゴンシュカ …… の両親であるとされる2人は上のような形で登場して来る。2人はありとあらゆる因襲を一笑に付して払いのけ、自ら成した巨額の財力を背景に、この時代、この地方に於ては信じられない程の自主独立の姿勢を保っていたらしい。レブの一臣下の立ち場でありながら、帰順した周辺諸国家の元首並みの扱いを、ダイ王から受けていた、と記録にはある。とまれレブのダイ王の三十七年、ズードリブールの侯爵妃は一女をもうけ、ウィナ・アケイン・アンゴルシュカと名づけられた。(※)

バシャッ。

中庭で起った水音は、幼いウィナが泉水の中に飛び込んだのである。熱い夏陽のもとで、芝を敷いた中の石造りの泉はいかにも涼味を誘う。八歳になったばかりの生意気盛りの少女が母の言いつけを破っても再三泳ぎたがるのは、まあ、無理からぬ事であった。

館(たち)の中で執務中であった父母も窓下で虹をはね散らして遊ぶ楽しそうな様を見てしまつては、我が子の親ゆずりの反骨精神を苦笑する以外手が無いのだろう。もとより溺死の危険性を案じての禁止であったのだから、ウィナが魚なみに泳げる程になってしまえば止める理由もないのである。

ウィナは背中を下に、手先と脚だけを使って深く深く、水面下へともぐって行く。泉水の深さは3m程か、ピタリ、と張りつくような姿勢で30秒も横たわっていればすぐに息が苦しくなって浮上してしまうのだが、それでも少女はそうやって光きらめく空-水面をながめるのが好きだった。

ひとしきり一人で泳ぎ回った後、ウィナは泉の噴き出しの上によじのぼって体をかわかすのが常である。周囲の木立の影では遊び仲間の子供達が女頭領の帰りをながめながら待っているわけなのだが、

(※) アンゴルシュカの娘ウィナの意。当時正式名は成人式の際に贈られた。

ウィナ様 で、ウィラ。

ウィラ・アーゴンシュカ = アーゴン王のウィナ様。

『水の大陸』 ～アーゴンシュカの物語～ （2006年4月22日）

[『水の大陸』 ～アーゴンシュカの物語～](#)

2006年4月22日 [連載](#)

自由奔放で名高い《ズードリブールの奥方様》の娘で、
水陸帝国領内で初の独身女性太守となった少女の一代記。

人物小史／アーゴンシュカ （*創作*） 2009年9月18日

[人物小史／アーゴンシュカ](#) （*創作*）

2009年9月18日

[リステラス星圏史略](#) （創作）

アーゴンシュカ > オウンシュカ, アルゴ

吟遊詩人
タユラス・ハムローン
の物語

(仮題)

『 (メモ) 』 (専校時代?)

[『 \(メモ\) 』 \(専校時代?\)](#)

2006年6月26日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\) コメント \(1\)](#)

キャリア

デュードナ

ジャンナ・モルタス・ナルドール

[『吟遊詩人の語り謡（タユラス・ハムローン）』シリーズ （1985.11.16）](#)

2006年6月23日 [連載（2周目!・上古神代～水の大陸）](#) [コメント（1）](#)

1785.11.16

マセク・アルマド・アルロイド

- ・ マセク > ~~アンゼリアナ~~
~~ライアーラナ~~
~~サラリアッサ（リアー）~~
 - > 婚約者 リルアリア・ハイナム > ~~アヤラン~~
> ルアリー

- ・ イルヴァド オンゼリーのイルヴァドル・カイザー
水の妖精（シアナ）の頭、シアナ・ファシオラ

- ・ 護衛アゴロン
- ・ 村娘 アイカ

○世界（わりとせまい）名前なし。
ホビット庄みたいな所ね。

タユラス・ハムローン
吟遊詩人の語り謡（うた）い

病都 死の砂漠 西の山脈 （世界） 起伏 麦 （海なし）

とりあえずの主人公 …… マセク・アルマド・アルロイド。

(マセク)

アルロイド選帝侯の一人息子。どちらかといえば控え目の優男だが、背は高い。武術はあまり強くない。学究タイプ？

その悪友 …… オンゼリーのイルヴァドル・カイザー

(イルヴァド)

オンゼリー領を治めるカイザー家の次男坊。浅黒い腕カタイプの色男。自惚れ屋で妙な所に智慧がまわる。

水の妖精(シアナ) …… 《水妖・治める者》(シアナ・ファシオラ)。

古い掟、およびマナ減少の影響によってしぼられる。

ヒロイン …… リルアリア・ハイナム。

(ルアリー)

ハイナム侯領の華。選帝侯の掌中の珠で兄が一人いる。

村娘 …… アイカ・コンロン。

マセクに惚れてイルヴァドに近づく。

護衛 …… アゴロン・ガスフェット。

マセクの目付役。中年いっぽ手前。

『アイネ・イム・リザンデの滝つぼ』 (from 中学2年の創作ノート!!)

[『アイネ・イム・リザンデの滝つぼ』 \(from 中学2年の創作ノート!!\)](#)

2006年6月28日 [連載 \(2周目!・上古神代～水の大陸\)](#) [コメント \(1\)](#)

オリ・キャラ劇団版「おりょうの木」

『アイネ・イム・リザンデの滝つぼ』

キャスト

リザンド・デリル 年若い女領主

ステラ・リー・ジョゼフィーヌ

(カァーリア／デュードナ) (不詳)

カァーリア／デュードナ

ジャンナ・モルタス・ナルドール

リステラス星圏史略
古資料ファイル
1 - 6
『四民平等』（仮題）

<http://p.booklog.jp/book/108560>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108560>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108560>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ